

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

## 修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	企業経済論研究	不可

問. 企業価値最大化の観点から、最適な資本構成（負債と自己資本の比率）を決定する際に考慮すべき理論的背景について論じなさい。特に、モディリアーニ＝ミラーの定理を出発点としつつ、法人税、倒産コスト、エージェンシー費用などの要因も考慮すること。

# 令和8年度 国土館大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般選考
試験科目名	企業経済論研究

### ■出題の意図

資本構成に関する主要な理論であるモディリアーニ＝ミラー (MM) の定理は、税や取引費用を考慮しない完全市場を仮定している。このため、MM の定理を、そのまま現実世界に適用することはできない。

現実の企業が最適な資本構成を追求する際に考慮すべき具体的な要素、例えば、税金や倒産コスト、エージェンシー費用などを挙げ、それぞれが資本構成の決定にどのような影響を及ぼすのか、受験生の理解を確認する。

### ■採点のポイント

採点ポイントは、以下の通りである。

1. MM 理論の基本的内容と前提条件の正確な説明
2. 法人税の存在による負債の節税効果
3. 倒産コストの影響
4. エージェンシー費用の理解と説明
5. ベッキングオーダー理論等の代替理論への言及